



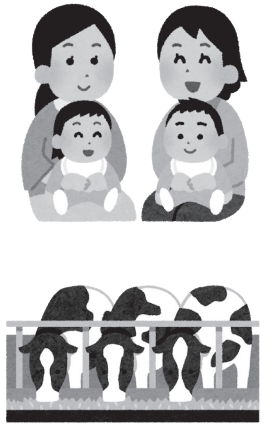
たぐちただよし 議員 田口忠義

笠岡版まち・ひと・しごと 創生総合戦略スタート

議員 本市は昨年、消滅可能性都市(※)に位置づけられ警鐘された。近隣市町は位置づけられていないが本市の原因と創生総合戦略の新たな施策についてたずねる。

市長 ①市外に転出するケースが多いこと。②未婚化、晩婚化が進んでいること。③合計特殊出生率や出生率が、国や県及び近隣市町村に比べ低いことからである。 現在の定住促進施策に加え、若者・女性の意見を大切にし、若者会議や女性会議等の開催に早急に取り組み新たな施策を具体化する。 また、第2子以降の経済的支援の充実をおこなうなど、重点的に子育て支援策の充実を図る。

※2010年から2040年の30年間で、女性の20歳から39歳の人口が5割以上減少すること



干拓の早急な悪臭 解消を望む

議員 畜産家が入植後25年を経過し、現在は6300頭の牛を飼育しているが、干拓周辺及びその他市民の皆さんは、早急な悪臭解消を切望している。今後の対策をたずねる。

市長 これまでの間、諸施策を支援してきた。例えば共同堆肥舎の支援や臭気対策チームを設置し堆肥実験も行ってきたが、実験を再現するには多額の費用を要する。畜産家の経営規模拡大が予測され、臭気問題の一層の悪化を懸念していることから、さまざまな方法を検討していく。

議員 駅前にある標語のように「潮風かおるまち笠岡へようこそ」となるよう、早急な対策を要請する。



にしなふみひで 議員 仁科文秀

利用率低迷どうする 「カブトガニ号」

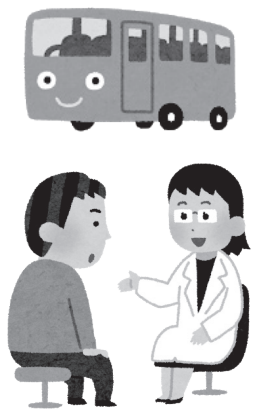
議員 大阪へ乗り換えなしで行ける高速バス「カブトガニ号」は貴重な交通手段で市民の一部には喜ばれているが、採算ラインを大きく下回り利用率は極めて低い。今のままでは廃止の不安があるが。

市長 確かに運行は厳しいが、すぐに廃止ではなく、リピーターとして利用されている年配者に加え、若年層へのPR、利用されやすいダイヤ、新しい運賃制度の検討を行う。利用者増加に向け努力する。

予断を許さない市民病院改革 本気で取り組むのか

議員 現在、院長が兼任する病院事業管理者を専任で置き、経営改善を検討することはよいが、現状

2、3年で替わる事務幹部職員も



病院内で人材育成する、外部から経験のある人材を雇用するなど、真剣に取り組むべきではないか。

市長 病院経営は非常に厳しい状況にある。人材は必要であり、病院経営に関する専門分野の人材も視野に入れて考えていくべきだ。

議員 総務省の資料①建て替えを行う予定がある②病床利用率過去3年間連続70%未満③地域医療構想を踏まえ医療機能見直し検討が必要、の3項目とも当てはまる笠岡市民病院は地域内での統合・再編ネットワーク化を国や県から求められると私は考えるが。

市長 笠岡市民病院は単独で経営運営をしていきたい。病院は地域完結型と考えているので、地域再編につながるのはいいことだ。

